

第3回 若手研究者による音楽学講座



「ショパンの和声・調性書法における強調音のはたらき」

◆ 講座概要 ◆

フリデリク・ショパン (1810~1849) の作曲活動の中心的時期である 1830、40 年代は、ロマン派様式の一盛期を画すると同時に、20 世紀には調性の解体へと至る調性音楽の歴史の中で、調性の土台を揺るがすさまざまな徴候が現れ始めた時期でもありました。今回の講座では、楽曲分析の結果に基づきながら、ショパンの和声・調性書法をそうした歴史的過程の中に位置付けてみたいと思います。その際、特定の音高の反復・保続によって形成される調的参照点に特に着目し、調性解体の徴候の一つである、単一の主調による支配の弱まりについて、新たな観点から検証することを試みます。(西田 諭子 記)

◇ 講師： 西田 諭子 (にしだ さとこ)

<講師 プロフィール>

国立音楽大学 (ピアノ専攻) 卒業後、ポーランド国立ショパン音楽院研究科に留学。2015 年お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了 (人文科学博士)。現在、お茶の水女子大学研究院研究員。共訳書に『ショパン全書簡 1816~1831 年—ポーランド時代—』(岩波書店、2012)。

【日 時】 2015 年 11 月 28 日(土) 14:00~16:00 (開場 : 13:30)

【会 場】 BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅から徒歩 1 分)
〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番 303 号

【受講料】 全席無料

【予約・お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp (定員 20 名)



若手研究者による BUNCADEMY 音楽学講座の趣旨

BUNCADEMY では、人文科学や芸術分野の優秀な若手研究者をお招きして、彼らの専門研究についてお話を聞く、「若手研究者による音楽学講座」のシリーズ企画講座を開催します。極めて狭き門とされる人文科学や芸術分野の研究職の道を目指して頑張っている、高い志と強い意志をもった人材を応援することは、Buncademy 設立趣旨の根幹をなしている重要な理念でもあります。

人文科学や芸術分野の学者の多くは、二桁年数をひたすら研究に捧げ、その努力が実を結んで研究者としての一步を踏み出す頃は、既に若くない若手研究者となっています。しかし、その人材登用への門さえもどんどん狭くなってきており、メディアでは国立大学から文系が消えるかもしれないとの衝撃的な報道が出るなど（2014年9月2日東京新聞24面掲載）、文系研究者をさらに絶望させてしまうような現実の状況です。これは日本だけの話ではありません。これは、テクノロジーが純粋科学の、文明が文化の代替となってしまっている時代が抱えている大きな問題であり、未来に何を繋げていくのかということから考えると、現代社会の生き死の問題にも直結しています。

BUNCADEMY は、文化と学問そして芸術が土台となる社会を指向しており、また人文科学と芸術分野で高い研究能力と専門的知識をもった人材を厚く支援します。その人材支援の小さな一步として、この「若手研究者による音楽学講座」のシリーズ企画講座を開催します。

(沈孝静 記)

若手研究者による音楽学講座：開催終了講座

◎ 第1回 1A 講座：2014/12/21(日) / 1B 講座：2015/01/18(日)

講師：沈孝静 (しむ ひょじょん) [お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了 (人文科学博士)]

テーマ：1A 講座：「モートン・フェルドマンの後期作品における記譜のイメージに関する考察」

1B 講座：「モートン・フェルドマンの音楽作品における音楽構造と音色形成の関わりについて」

◎ 第2回 2015/03/21(土)

講師：今野哲也 (こんの てつや)

[国立音楽大学大学院博士後期課程創作研究領域修了(音楽博士) / 国立音楽大学音楽学研究室助手]

テーマ：「《抒情組曲》第I楽章における音列の再考察 —A. ベルクの手稿から読み取れるもの—」

BUNCADEMY

◎ HomePage: <http://buncademy.co.jp> ◎ blog: <http://buncademy.co.jp/wordpress/>

◎ Facebook page: <https://www.facebook.com/buncademy>